

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

統合報告書 15、19 ページの内容を参照しました。九州旅客鉄道は長期ビジョンとして「安全・安心なモビリティサービスを軸に地域の特性を活かしたまちづくりを通じて九州の持続的な発展に貢献する」ということを挙げています。具体的にはターミナル駅周辺・自社沿線の地域では豊かさを追求した複合的な価値の提供、それ以外の地域では持続可能なインフラの提供・地域資源の再発掘による交流人口の拡大という 2 軸に分けてその両方を達成することを目標にしています。そのために環境・地域経済・地域社会という 3 つの分野への貢献を考えた戦略をとっています。他社交通機関・行政と連携して九州全体の交通の利便性を高めようとしている MaaS の取り組みからも、モビリティサービスを軸にした九州の持続的な発展という会社が目指す将来の姿が理解できます。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

統合報告書 11,14 ページの内容を参照しました。まず、鉄道事業は新規参入のコストが高いため既に交通網を整備している JR 九州は競争優位を築いていると言えます。また、駅ビルを始めとした豊富な不動産資産は安定的な収入源となっています。ホテル事業、流通・外食事業は自社の運輸サービスとの連携により、取ることができる戦略の幅が広いという強みがあります。また、建設事業に関しても鉄道の専門技術を活かした業務をメインに行っており独自の強みを持っています。以上のような点から競争優位性が理解できます。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

2 で挙げた競争優位性はどれも安定性が高く一時的なものではないため、持続性があると考えられます。しかし、ほとんどの事業を九州で行なっているため、競争優位性の有無に関わらず売上が九州の景気に左右されるという側面もあるように思えます。そのため、売上を伸ばすためには九州全体の発展も必要不可欠な要素であり、長期ビジョンで掲げる目標は地域住民のためだけでなく会社にとっても成長の鍵であると理解しました。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

統合報告書 50 ページによれば社内の誰でも応募できる新規事業提案制度として未来創造プログラム HIRAMEKI という取り組みが行われており、提案が採用されればそのプロジェクトに配属されるということです。この取り組みは、社員が自分のアイデアを形にする挑戦ができるため、主体性を高めるなど社員の価値向上に役立つと思います。また、グループ

内外への戦略的出向を積極的に行い、従業員のスキルアップを行なっているのは人材価値向上への良い施策だと思いました。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

分野ごとにどのような方針で活動しているのか、その方針の策定プロセス、具体的な取り組み例が示されていたため理解しやすかった。社長と CFO からのメッセージの中に各章で説明している内容が文章でかなりたくさんあったのですが、各章で図や写真を使ったわかりやすい説明がなされていたので、メッセージはもう少し簡潔なものにしたほうが読みやすいのではないかと思います。また、3章でまちづくりに対して具体的にどのような取り組みを行ったのかと、これからの計画が書いてありましたが実際に金額にしてどの程度の成果が出たのか、これから出る見込みなのかを示すことがその施策が成功だったのか判断しやすくするために必要だと思いました。